

◎ 中・高学年 | 「読むことの学習・表現することの学習」

「仮想インタビュー」に挑戦しよう ～対話を楽しもう～

○ 相手との対話（コミュニケーション）を大切に

インタビューというと、スポーツの試合後に行われる「ヒーローインタビュー」のようなイメージを抱きがちです。事実、調べ学習の取材などで子どもたちが誰かにインタビューする時も、メモした質問事項を読み上げて答えを一生懸命書き取り、そそくさと挨拶して終わらせてしまう姿がよく見られます。聞き手が一方的に質問するだけでは深みのあるインタビューにはなりません。話し手と一緒に対話を創り出していく楽しさこそがインタビューの醍醐味であり、そこには確かな相手意識が求められるということを感じ取ってほしいものです。そこで今回は、「インタビュー学習」の指導を、「詩」を題材にした読みの学習や表現の学習の中で扱う方法をご紹介します。

○ 「インタビュー」ができるかな？

まず、作品を紹介し、わからないところがないかをたずね、感想や疑問を書いてもらいます。

ひまだから「し」かいてるの	だから おれ きょう おやすみ	つかっちまって、さ	とうとう そよかぜ ぜんぶ	あんまり かわいくて、さ	みのおむしのやつ わらってねむったぜ	そよかぜをだして ゆすつてやった	おれ あしたのぶんに とつておいた	むりないよ	まだちいさいし、な	こわいゆめ みたのだった	みのおむしのやつ ないているのさ	くりのきのところとおつたら、さ	ゆうべ	「し」をかきひ	かぜみつる
---------------	-----------------	-----------	---------------	--------------	--------------------	------------------	-------------------	-------	-----------	--------------	------------------	-----------------	-----	---------	-------

(工藤直子著『のはらうたI』童話屋より)

「なんで風をぜんぶ使っちゃったのかな」といった読み取りが不十分な子どももいますが、多くの子どもが「おもしろい」「優しいな」といった感想を抱くようです。中には、「なぜひまになった時に、『し』

を書くことにしたのだろう」といった疑問をもつ子どももいます。何人かの感想や疑問を発表してもらった後で、この詩の本当の作者が工藤直子さんであることを告げると、驚きの声があがり、「え、じゃあ何で『かぜみつる』って書いてあるの」「あ、そうか」などのつぶやきがあちらこちらで生まれてきます。

ここで、「みんなの疑問や感想を話し合うのもいいけれど、それをインタビューにまとめることに挑戦してみませんか」と課題を提示します。

○ 相手の答えを想定（シミュレーション）しよう

- ◆ 作者である工藤直子さんへのインタビュー
- ◆ 評論家に批評を求めるインタビュー
- ◆ 他の作品とふたつ並べて、街頭インタビュー
- ◆ かぜみつるさんへのインタビュー

例えば、「かぜさんは、『し』がお好きなのですか？」
「まあね。でも、さ、なかなかいい『し』ってやつ、かけないから、さ」のように、やりとりを想像して書いていきます。

ねらいは、相手の答えを自分なりに想定する経験をもたせるということにあります。また、作ったインタビューを互いに見せあったり、実演しあったりすることで、さらに多くの学びが広がります。「僕はこう思うのだけれど、どうしてそう考えたの？」と友達にたずねるような場面が生じたならば、それこそ望ましいインタビューに、また一歩近付いたことになるのではないのでしょうか。

この実践を通して、詩の読みが深まり、表現の仕方にも工夫が生まれます。さらに、物語の読みの学習や、新聞作りの紙面構成の工夫などに発展させていくことも可能となります。ぜひ試してみてください。